

[成果情報名] モモを加害するシンクイムシ類の発消長

[要約] 新梢および果実を加害するナシヒメシンクイは4月上旬からモモ園に飛来し、果実を加害するモモノゴマダラノメイガは5月下旬からモモ園への飛来が多くなる。果実被害は主にモモノゴマダラノメイガによることから、袋かけ以降の防除も重要である。

[キーワード] モモ、ナシヒメシンクイ、モモノゴマダラノメイガ、発消長

[担当機関名] かき・もも研究所

[連絡先] 0736-73-2274

[部会名] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

近年、台湾や香港にむけてモモが輸出されているが、その際、果実への害虫の付着が問題となる。シンクイムシ類は果実を加害する害虫の中で最重要害虫である。ナシヒメシンクイは合成フェロモンによる発消長の調査は可能であったが、モモノゴマダラノメイガは合成フェロモンがなかったことからその発消長は不明であった。しかし、近年フェロモンが合成されたことから、フェロモントラップによる発消長調査が可能になった。そこで、両種は共にモモ果実を加害するので、シンクイムシ類による果実被害を軽減させるために発消長を明らかにし、防除適期把握に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. ナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺消長は、調査を開始した4月1半旬には誘殺が見られ、5月下旬以降に増加する（図1）。
2. モモノゴマダラノメイガは、5月上旬から誘殺が始まり、5月下旬以降に増加する（図2）。
3. モモの主要品種である白鳳は7月上中旬に収穫されることから、袋かけ時期（5月下旬）から収穫期までの薬剤防除も重要である。

[成果の活用面・留意点]

1. 果実被害はナシヒメシンクイよりもモモノゴマダラノメイガによる被害の方が多く見られる。また、有袋によるシンクイムシ類を対象とした防除効果は低いので（表1）、袋掛け以降のシンクイムシ類を対象とした薬剤防除は重要である。
2. 調査に用いたフェロモンは性フェロモンであり、雄成虫のみが誘殺される。

[具体的データ]

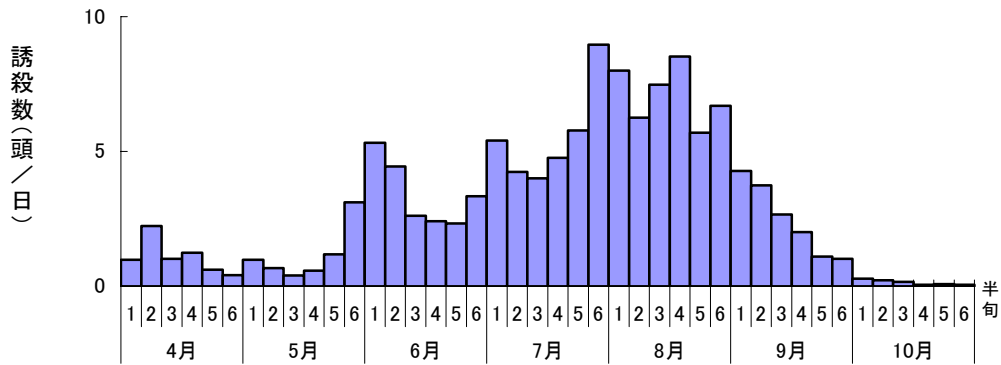


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺消長(1998~2007年の平均)
 調査場所:紀の川市粉河、かき・もも研究所内.
 調査方法:SEトラップにフェロモンルアーを設置し、5日毎に誘殺虫数を調査.

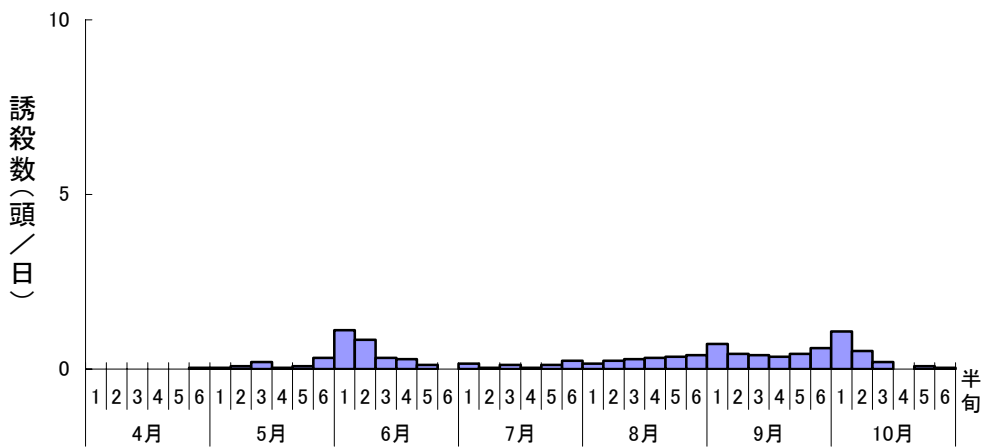


図2 フェロモントラップによるモモノゴマダラノメイガの誘殺消長(2003~2007年の平均)
 調査場所:紀の川市粉河、かき・もも研究所内.
 調査方法:SEトラップにフェロモンルアーを設置し、5日毎に誘殺虫数を調査.

試験区	有袋			無袋		
	調査 果数	被害果数		調査 果数	被害果数	
		ゴマダラ	ナシヒメ		ゴマダラ	ナシヒメ
I	76	4	0	86	3	0
II	73	3	0	89	3	2
III	62	9	3	72	16	3
合計(%)	211	16(84.2)	3(15.7)	247	22(81.5)	5(18.5)
調査場所および品種:かき・もも研究所内、白鳳						
調査方法:有袋区について5月22日に果実へ二重袋をかけ、6月27日に除袋した。7月3日に果実被害の有無を調査した。						

[その他]

研究課題名:果樹病害虫防除技術の開発

予算区分:病害虫発生予察事業 研究期間:平成15~19年

研究担当者:南方高志

発表論文等:なし